

## 平成31年度 認定こども園における自己点検・自己評価結果

けやき認定こども園では、保育の質の向上を図るために自己評価を実施しました。今後も、より良い保育を提供できるよう努力して参ります。

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	変化の兆し (40%以上)

課題項目	具体的な取り組み	評価
教育・保育 理念・内容	① 園の教育理念及び教育方針等の重要事項を理解している。	A
	② 毎朝礼時において、“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”を唱和、解説し、職員全体に深く浸透するよう努めた。	A
	③ 毎終礼時には、各クラスより出される現状報告に対し、次の日以降の取り組みに対する話し合いを行った。	A
	④ すべての子どもについて、ひとり一人の存在とその人権を尊重して接する事ができた。	A
	⑤ 教育・保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している。	A
	⑥ 子どもの文化や生活習慣、考え方が多様である事を知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めた。	A
	⑦ 子どもと一緒に思い切り体を動かして遊ぶ事の重要性を理解している。	A
	⑧ 教育・保育には、予め見通しの持った計画性が必要だと知っている。	A
	⑨ 子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象を把握して、月・週・日案等作成している。	A
	⑩ 季節感や日本の伝統行事などを指導計画の中に取り入れるようにした。	A
園の職務	① クラスの教材、備品の点検は、担当責任者が管理した。必要に応じて、発注、修理等を依頼した。	B
	② 欠勤した日の出来事や連絡、注意事項は、情報共有するようにした。	A
	③ 登園を嫌がる事が続く等、問題を感じた時、園長や先輩保育教諭に、その原因や対策の仕方を相談するようにした。	A
	④ 職員会議で自分の意見や考えと違う結論が出た時もそれに従って気持ちよく協力し、実行した。	A
	⑤ 本来の業務以外に園にかかわる仕事を頼まれた時、職務の一端と考え、責任をもって引き受けた。	A
	⑥ 個人情報の保護に配慮し、園児や家庭についての秘密を漏らす事がないようにした。	A

行事について	① 園が従来から続けてきた「行事」について、その意味を十分に考えた。	A
	② 子どもの健やかな育ちに繋がる意味を持つ事を理解した上で、参加した。	A
	③ 「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の教育・保育の積み重ねの結果となるよう心掛けた。	A
保育教諭としての資質向上	① 認定こども園スタッフとしての職務内容に関して自己評価する事で、各々職員の中で不足点を見出す事ができた。	A
	② 自分の教育、保育を振り返り、問題点や課題を見つけるように努めた。	A
	③ 研修で得た内容、成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をする為に役立てた。	A
	④ 教育、保育に対する同僚や上司からの批判や意見を感情的にならずに謙虚に聞く事ができ、時には反省することもできた。	A
	⑤ 自身の教育、保育実践について、園長をはじめ、他の職員が把握できる保育日誌等の記録が書けた。	A
地域の子育て支援	① 地域の未就園児を対象とした、園庭開放を基本的に月3回～4回（毎週水曜午前中）に行った。	A
	② 地域の未就園児を対象とした、1歳児と2歳児の未就園児教室を行った。 （1歳児：月1回、2歳児：週2回程度）	A
	③ 園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している。	A
	④ 日頃の教育、保育内容、子ども達への教育、保育方法のすべてが、地域の子育て支援に繋がる事を理解していた。	B
	⑤ 園には子育て相談等の「地域の子育て支援」という役割が求められている事を受け止め、積極的に関わることができた。	B
安全管理	① 地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練に参加し、非常災害時に何をすべきか把握している。	A
	② 園庭にガラスの破片等、危険なものがないか調べたり、砂場を掘り返して整える等、安全な環境づくりの努力をした。	A
	③ 備品棚やピアノ等の転倒防止、その他、事故が起こらないように、保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めた。	A
	④ 毎朝、遊具点検は、担当職員が行った。尚、降園後には、担当職員が園庭及び施設確認を行い、園長に報告した。修理依頼は、直ちに営繕担当に報告し、修繕を行った。	A
	⑤ 登降園時の事故防止について、保護者が何を注意すればよいか、自身で説明、お願いする事ができた。	C

衛生管理 保健管理	① 保育終了後、保育室、廊下、園舎内の清掃を必ず行った。	A
	② トイレの床は、30分に1回、フリースタッフが、拭き掃除を行った。	A
	③ 子どもの体の些細な変化や異常に速やかに対応する為に、常的な体調や機嫌の状態を掴むよう努めた。	A
	④ アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等の子どもに対して医師の指導のもとに適切な対応をしている。	A
	⑤ 睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を把握する等、SIDS等への予防に努めた。	A
研修計画	① 全職員、春と夏の2回、外部講師を招いての園内研修に参加し、交流を図りながら共通の理解を深める事ができた。	A
	② 1年目の職員は、新規採用研修会に参加し、これからの教育、保育について学びを深める事ができた。	A
	③ 埼玉県、全埼玉私立幼稚園連合会、西武地区、狭山市主催の研修会や業者主催の研修会に参加し、自身の学びを深める事ができた。	A
特別支援	① 園は、障害を持つ子どもそうでない子ども「共生」「共育」の観点から、当たり前の事として、教育、保育する考え方に共感できる。	A
	② 障害児もそうでない子ども互いの良さを感じ取り、楽しく交流できる雰囲気づくりに励む事ができる。	A
	③ 障害児により適切な教育、保育をする為に、様々な専門機関等と連携できた。	B
	④ 気になる子について、どのような支援が必要なのかスタッフ全員で話し合った。	A
	⑤ 気になる子どもに対して、必要な時には、保育補助担当に入ってもらえる等の対応ができた。	A
小学校との連携	① 就学予定児が多い小学校へは連絡会へ出向き、情報交換を行っている。	A
	② 小学校の運動会への参観を行っている。当園の運動会案内を近隣の小学校へ送り、お越しいただいている。	A
	③ 年長児は、地元小学校のグラウンドをお借りして、小学生と体を動かしながら交流を図っている。	B
食育の推進	① 狭山市民大学講師をアドバイザーとして招き、園児と保育者が一緒に畑の土づくりや種まき、苗の植え付け、追肥、収穫方法を楽しんで学んだ。	A
	② 園の隣接地に体験農場がある為、野菜及び稲の生長を間近で観察し日々の変化を知る事ができた。	A
	③ 職員や子どもが、収穫した野菜を自ら調理する等しその味を楽しむ事もあった。子どもが収穫した無農薬野菜を届けたりし、栄養士、調理スタッフとも関わりを持つ事ができた。	A